

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 1 区分
【発行日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)

【公開番号】特開 2019-15628 (P2019-15628A)
【公開日】平成 31 年 1 月 31 日 (2019.1.31)
【年通号数】公開・登録公報 2019-004
【出願番号】特願 2017-133794 (P2017-133794)
【国際特許分類】

G 0 1 T 7/00 (2006.01)

A 6 1 B 6/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 T 7/00 A

A 6 1 B 6/00 3 0 0 S

A 6 1 B 6/00 3 0 0 W

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 6 月 29 日 (2020.6.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

放射線検出器と、発熱部材と、放射線の入射方向から見て、前記放射線検出器の背面側に位置し、前記発熱部材と対向する位置に凹部を有する下筐体と、前記発熱部材からの熱を前記下筐体へ伝熱するための伝熱部とを有する放射線撮影装置であって、

前記伝熱部は、前記発熱部材と前記凹部との間に配置されるとともに、前記下筐体の内面に沿って、前記凹部以外の領域にも連続的に配置されていることを特徴とする放射線撮影装置。

【請求項 2】

前記伝熱部は、前記下筐体の内面全体に配置されていることを特徴とする請求項 1 記載の放射線撮影装置。

【請求項 3】

前記放射線検出器は、前記下筐体と上筐体とからなる筐体の内部に配置され、前記凹部は前記上筐体の側面まで到達するように配置されていることを特徴とする請求項 1 記載の放射線撮影装置。

【請求項 4】

前記伝熱部の熱伝導率は、前記発熱部材と前記凹部との間の部分よりも、前記凹部より延在した部分の方が高いことを特徴とする請求項 1 記載の放射線撮影装置。

【請求項 5】

前記伝熱部は、前記凹部より前記下筐体の中心に向かって延在して配置されていることを特徴とする請求項 1 記載の放射線撮影装置。

【請求項 6】

前記伝熱部の前記下筐体とは反対側の面に、前記発熱部材と前記凹部との間の領域を除いて、断熱部材が配置されていることを特徴とする請求項 1 記載の放射線撮影装置。

【請求項 7】

前記下筐体の外面側と内面側との少なくとも一方に、前記凹部と、前記凹部から前記下筐体の端部に向かう位置に、断熱部材が配置されていることを特徴とする請求項 1 ~ 6 の

何れか 1 項に記載の放射線撮影装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の放射線撮影装置は、放射線検出器と、発熱部材と、放射線の入射方向から見て、前記放射線検出器の背面側に位置し、前記発熱部材と対向する位置に凹部を有する下筐体と、前記発熱部材からの熱を前記下筐体へ伝熱するための伝熱部とを有し、前記伝熱部は、前記発熱部材と前記凹部との間に配置されるとともに、前記下筐体の内面に沿って、前記凹部以外の領域にも連続的に配置されていることを特徴とする。